

第2会場●4F 視聴覚室

■司 会／福島 伸二 熊本県教育庁社会教育課 社会教育主事
福田 充雄 島根県横田町立馬木小学校 校長

1 ポーン太の森自然冒険塾の7つの課題 13:30～13:55

小野 豊徳（福岡県東峰村） 東峰村レクリエーション協会 会長

親の理解と親子の共感が子どもの成長には不可欠という根本認識に基づき、親対象のキャンプと子ども対象のキャンプを同一会場で実施。子どもには、「刃物の使用」、「火の使用」、「夜の闇」、「川遊び」など7つの課題を準備した。一方の親には、アウトドアクッキングとクラフト活動を準備、「今、子どもに求められる自然体験」のディスカッションを行った。

2 子育て支援と交流の輪づくり 13:55～14:20

ーささやかな発信ー着実なネットワークづくりー

藤田 千勢（山口県長門市〔旧油谷町〕） 長門市主任児童委員

児童委員の経験から子育て支援の重要性を認識し、「ふれあいサロン」、「母親クラブ」などの名称のもとにさまざまな試行を重ね、現在は、さまざまな仲間の協力を得て、自宅を開放して25～30組の未就学児童の親子が参加する「ひよっ子クラブ」を主催している。活動は多目的で子育て支援を中核としながらも、母親同士のふれあい；「しゃべりば」、地域で読み聞かせや紙芝居を実践しているサークルとの協働、男女共同参画理念の実現など複合的な活動を展開している。

ティータイム 14:20～14:55

3 NPOグループによる不応問題に関する総合支援体制の創造と実践 14:55～15:20

谷口 仁史（佐賀県武雄市） NPOスチューデント・サポート・フェイス 専務理事

SSFは会員約90名。不登校、引きこもり、非行などさまざまな不応問題に当面する子どもを対象に、主として「訪問型支援」に取り組んでいる。具体的には、20代の若者を家庭教師として派遣し、直接的な教育支援を行う。9割以上の受け入れ家庭から「改善」の報告が届いている。会はその他講演、研修、情報誌の発行、シンポジウムなど総合的に教育支援を行っている。

4 科学と遊びの出前講座による生涯学習ネットワークの形成 15:20～15:45

藤本 忠男（岡山県新見市） わくわく科学ランド 代表

新見市・高梁市の学生・教職員を中心に形成され、さまざまな団体や地域に科学と遊びの楽しさを出前して人々の交流をつくり出し、“仕掛人”活動による生涯学習のネットワークづくりが目標。現在メンバーは20名程度。活動は岡山県全域、年間の活動回数は40～60回。1回の活動には4～5人のメンバーが参加する。参加事業は幼稚園から中学校までのPTA行事、公民館、教育委員会の事業などである。

5 総括討論 15:45～16:15